

上下水道DX推進検討会

第1回委員会 資料5 検討会の進め方 R6.12.25

第3回委員会 資料4 中間とりまとめ（概要）R7.4.10

設問 (1)			設問 (2)			設問 (3)	設問 (4)
観点	課題	課題の内容	解決策1	解決策2	解決策3		技術者倫理、社会の持続可能性
共通化	優れた業務事例の水平展開の遅れ	課題解決にあたり優れた成果を上げている業務実施手法やDX技術の水平展開・導入が必要だが、優れた業務実施を支える技術ノウハウの伝承やDX技術の導入検討において、人的リソース不足が課題である。(90)	①共通する業務の抽出・・・大多数の水道事業、下水道事業で必要な業務種別を記述する	②各業務における優れた事例及びDX技術の整理・・・優れた事例やDX技術の例を記述する	③優れた事例の業務ノウハウを分析・共通化・・・「優れた」の内容を具体的に記述する	全ての解決策を実施しても生じうる新たなリスクとそれへの対策について、専門技術を踏まえ	
共通化 (ヒト)	人的リソースが不足	上下水道事業における維持管理は人の手に大きく依存しており、効率的な事業運営を進める上で課題となっている。そこで、DX技術の導入が必要となるが、中小規模の事業体を中心に導入検討における人的リソースが不足している。(110)	①共通業務でのDX実施：全国の事業者において共通で実施されている業務について、AI、人工衛星など新たなDX技術の活用(60)	②広域事業でのDX実施：広域的な事業者間の連携により導入(30)	③全国展開：具体的な取り組み事例を参考にしながら、導入にあたっての課題を整理・解決し、その活用方策について広く全国へ展開(60)	サイバー攻撃←各種のサイバーセキュリティ対策	
標準化	情報整備・管理の標準化の遅れ	人員不足や施設の老朽化等が進む中、広域連携等による効率的な運営体制の構築が重要だが、紙媒体で情報管理がなされている自治体や、電子的に情報管理がなされてもシステムの仕様等が異なる自治体もある。	①上下水道事業の情報整備・管理のあり方を検討・・・情報整備・管理として注意点を記述する	②既存のガイドラインや標準仕様等の課題整理・・・既存に関して改善すべき点を具体的に記述する	③情報整備・管理の標準化等の促進策を検討・・・促進策を具体的に記述する(何故、標準化が進まないのかを参考に)	自然災害等によるデータセンターのダウン←分散化・多重化	

標準化 (情報)	データ共有の 不足	管路施設情報の台帳システムへの登録等が進んでいないことから、施設情報を他事業者とデータで共有できず、災害時の対応や広域連携の推進にあたって、課題が生じている。(80)	①施設情報の定義と運用：他事業者による災害対応の迅速化に向け、他事業者が災害対応時に必要となる最低限の施設情報を定義するとともに、災害対応時における施設情報の統一的な運用について検討(90)	②標準仕様書等の整備・改訂：広域連携にも資する環境整備も促進するため、台帳システムで管理する用語等の統一を進め、他事業者とのデータ交換を行えるよう、標準仕様書等の整備・改訂を行う(90)	③共通プラットフォームの構築：広域連携やDX技術の開発・導入に寄与するため、水道、下水道及び集落排水それぞれの管路施設における共通プラットフォームの構築を加速化させる(80)	
可視化	経営状況等の 見える化の遅れ	上下水道事業の持続性を向上するためには、コスト削減の徹底や料金・使用料の適正化等の経営改善に取り組むことが重要であり、利用者等の理解を得るためにも、上下水道の役割や効果、事業運営上の諸課題について、積極的に広報を行っていくことが必要。	●政策ダッシュボードで取り扱う指標の検討・・・可視化して伝えたい内容(ex.事業効率性、事業健全性、事業継続性)と指標との整合性	●公表のイメージ(見やすさ、分かりやすさ)の検討・・・他の公共事業で見慣れている、民間事業において用いられている等の、見やすくわかり易い例を記述		
可視化 (情報)	経営状況の可 視化の不足	水道事業の経営状況等について、全国及び都道府県内の各事業者間の必要なデータを容易に比較可能な形で可視化できるデジタルツールがなかった。	地域の水道の現状に対する理解を醸成し、DX技術導入による効率化を含む経営改善に向けた取組を促すため、事業者の経営状況等を簡便に比較でき、かつ視覚的にもわかりやすいデジタルツールにより「見える化」			
600字1枚(600)			600字1.5枚(900)		600字0.5枚	